

説 教

Open Church 礼拝 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2020年11月22日(日)

主 題:「平安がありますように」

—My Peace—

聖 書:詩篇23篇1-3節

**はじめに**

- ・本日は、私たちの教会の「オープン・チャーチ礼拝」日です。

初めて教会へお越しくくださった皆様、またオンラインで礼拝に初めて参加くださる皆様、歓迎いたします。私は今日、聖書から分かり易くお語りしたいと思いますので、どうぞ心を楽にしてお聞きください。

- ・もし、「あなたにとって、もっとも大切なものは何ですか?」と尋ねられたら、あなたはへと答えられるでしょうか。きっと、あなたには大切なものがいろいろあるでしょう。
- ・時代はグローバル化時代から情報化時代へ移り、今は SNS の発展によって、世界中のニュースと情報が瞬時に入ってきます。そこで怖いのは、誰でもが SNS や You Tube を通して情報を発信、また受信できる時代となっていることです。そして何万、何十万件というアクセス数が出て、社会はそれを競い合うように炎上しています。
- ・そこには、フェイク・ニュースもありましょう。何が正しいのか不明なことが多々ありますね。被害者となった人は、深く傷を受けています。社会は発展し、便利になりました。しかし人の心は本当に豊かになったでしょうか。

- ・「あなたにとって、もっとも大切なものは何ですか?」

皆さん! 世界中、どこの、どんな人間にも平等に与えられているのは時間です。その時間が積み重ねられて、私たちの人生となるのです。

- ・私たちの人生は、非常に貴重です。なぜなら「ワン・チャンス」、一度しかないからです。リセットはできません! 私たちは、その貴重な人生をどのように過ごしているのでしょうか。
- ・今は世界中がコロナ禍時代を迎えています。小さなコロナ・ウイルスによって、社会の秩序が崩れ、経済は大打を受け大きく混乱してしまいました。私たちは一時も速く、コロナ禍が終息することを願っています。しかし、トンネルの出口はまだ見えていないのが現実です。

**{例} ウイルスの大きさ**

- ・スギ、ヒノキ花粉は直径 30~40  $\mu\text{m}$
- ・黄砂は約 4  $\mu\text{m}$
- ・PM2.5 は 2.5  $\mu\text{m}$  以下



$\mu\text{m}$  (マイクロメートル) は長さの単位、1  $\mu\text{m}$  は 1mm の千分の 1 の長さの 0.001mm

\* ウイルス (ウイルス核) は約 0.1  $\mu\text{m}$ 、

- ・「コロナ・ウイルス」はこんなに極小です。しかし、コロナ・ウイルスは世界中に拡散し、毎日新感染者が新たに出てくると、人の心は落ちつきを失ってしまうものです。欧州では、すでに第 3 波に苦しんでいます。コロナ禍によって、生活は変わり、社会が変わり、今まで大切と思って

いたことに、あまり価値がないことに気づき始めました。これだけ医学や、科学や、産業、AIが進んでも、まだコロナ・ウイルスを解決できないのです。

- 数週間前ですが、米国の経済と文化の中心地 NY の地下鉄で、一流のジャズ・ピアニストである日本人音楽家が、何者かによって襲撃を受けました。彼は因縁をつけられ、集団で暴行を受け、腕や肩を骨折する重傷を負ってしまいました。今も痛みと苦しみに苦しんで復帰のメドは立っていないそうです。本当に残念です。
- NY ではコロナ禍で失業者数が増え、人々のストレスが溜まり、このような暴行事件が起こっていると聞いています。とても残念です。NY の犯罪発生状況（10月18日現在）は、殺人事件362件（前年比32.6%増）銃撃事件1235件（92.4%増）です。このような異常な社会では、生きることに、誰でもが不安を覚えることなのでしょう。
- 幸いにも、日本社会はそこまではエスカレートしていません。しかし今の時代、人々は本当のところ心休まる場所を求めているのではないのでしょうか。聖書は神が世界と人間を造られたと語っています。その神は、そのように心騒ぐ世界を、また人生を願っておられるのでしょうか。いいえ、神は一度しかない人生を平安に過ごすことを願っておられます。
- 今から約2千年前、イエス・キリストというお方は、十字架にかかり、そして復活されました。イエスに従っていた弟子たちは、自分たちも捕らえられ、暴行を受けるのではないかと、不安をかかえ怯えていました。弟子たちは、あちらこちらへバラバラに逃げました。その不安を抱えていた弟子たちの前に、復活されたイエスが姿を現わされました。
- そして開口一番に言われたおことばは、「平安があなたがたにあるように。」（ヨハネ 20 : 19）でした。失望、落胆、恐れの中にあつた弟子たちにイエスは、「平安があなたがたにあるように。」と言われました。

**「平安」⇒それは私たちが最も必要とするものです。**

- 聖書の中には、いろいろな人々が登場します。紀元前に大きく活動したイスラエルの王の1人に、ダビデという人がいました。彼は羊飼いで出身でしたが、出世しイスラエル国の最高権威者である王に君臨した偉大な人でした。
- その彼が晩年に自分の人生を振り返り、わずか6節で自分の人生をまとめ上げました。それが今日のテキスト詩篇23篇です。彼は自分の人生には、苦しみや戦いはありましたが、幸いであつた、と歌いあげました。自分の人生を振り返り、「私は乏しいことはありません。」（36 : 1）「私のいのちの日の限り いくしきと恵みが私を追ってくるでしょう。」（36 : 6）と歌いました。なんと幸いな人生ではありませんか。
- 苦しみは戦いがあつても、このように賛美できる人は幸いです。しかし今は、ダビデ王の時代から約3千年の年月が経過しました。しかしながら、今も多くの方々に、詩篇23篇は引用され、愛されています。不思議に思いませんか。
- ダビデ王は、どうしてこのような詩を歌い上げることができたのでしょうか。今日、私は前半の部分から2点申し上げたいと思います。

## 大切なポイント

### 1. ダビデ王には居場所があった

- ・彼はこのように歌いました。

23:1 主は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。

23:2 主は私を緑の牧場に伏させいこいのみぎわに伴われます。

- ・ここに、大切なキーワード4つがあります。順に見てみましょう。

#### ① 主は私の羊飼いです

- ・ダビデ王は自分と主（神）との関係を、このように歌い上げました。羊は動物の中でも、迷い易い動物です。羊飼いがいなければ、羊は道に迷ってしまいます。したがって羊飼いです（牧者）がいなければ、羊は生きることが難しい動物です。
- ・一方、羊飼いは羊に水を与え、草を与え、野獣動物から羊を危険から守ります。それが羊飼いの仕事です。羊と羊飼いはこのような関係です。
- ・ダビデ王は自分と神（創造神）との関係を、このように喩えました。  
つまり、一国の王にまでなった彼は、自分の存在を迷い易い羊にたとえました。これは神と私の関係で言え得ることです。
- ・私たちは、これまで創造神を知りませんでした。神を知らず、神から離れた生活を過ごしてきました。そこに、多くの人々が生きる目的が不明であり、人生で迷う原因があるのです。

#### 『例 話』

- ・私の信仰のドイツの友に、**Guenter Stein** という男性がいます。彼は **Abitur**(ドイツ大学受験資格)を取り、すぐ大学へ進むのではなく、人生の意義を知りたいと東洋のアジアのインドへ旅に出ました。
- ・インドではヒンズー教寺院へ行き、来る日も来る日も修行をしました。しかし彼は、心に平安を得られませんでした。そこで彼はアフガニスタンへ渡りました。アフガニスタンでも彼は、人生の意義を求めて、モスクへ行きアラの神に祈りを捧げました。しかし、彼の心は満たされず悶々とした日々を送っていました。
- ・その時、彼はアフガニスタンに群生していた「ケシの花」(アヘン) に手を出してしまいました。アヘンを吸うと、それまでになかった解放感、安心感があったそうです。そしてみるみるうちに、彼はアヘンの虜となってしまったのです。
- ・彼はこのまま進めば自分は廃人になってしまう、と分かっていました。手持ち金も底をついてきました。彼は人生の意義を求めて、東洋哲学に引かれてインド、アフガニスタンへ渡ってききましたが、ここで廃人になってしまうと考えました。
- ・しかしお金もなくなり意気消沈していたその時、突然「**Zurueck nach Deutschland!**」(ドイツへ帰りなさい!)という声を聞きました。そこで彼はアフガニスタンのドイツ大使館へ行き、事情を説明してドイツ帰国のチケット代金を提供してもらいました。
- ・帰独後まもなく、彼は故郷の村を1人歩いていた時、クリスチャンの幼友達に出会いました。彼はそこで生まれて初めて、神とイエス・キリストについて聞きました。そして、自分は羊飼いです（神）から離れ迷った羊であることを知り、クリスチャンとなったのでした。
- ・**Guenter Stein** はこのような経験を通して神学校に来て、私と机を並べて学びました。この証は私が彼から聴いた実話であります。
- ・イエス・キリストは言われました。「わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。」(ヨハネ 10:11)

皆さん！ 私たちの人生は変えられるのです。

## ② 乏しいことはない

- ・この言葉は「私には欠乏しない」という意味です。イスラエルの民の、主エジプト後の荒野時代を思い出す言葉でもあります。 **旧約聖書、申命記**

**2:7 あなたの神、主は、あなたの手の業をすべて祝福し、この広大な荒れ野の旅路を守り、この四十年の間、あなたの神、主はあなたと共におられたので、あなたは何一つ不足しなかった。**

- ・ダビデはここでイスラエルの民を、自分に置きかえて歌いました。皆さん！  
なんとという幸いな人生ではありませんか。神がイスラエルの民をエジプトから引き出し、荒野の地を歩かせ、約束の地カナンへ向かわせた期間（40年）、何一つ欠けるものはありませんでした。そのように神を信じ、神に先導されて歩む人の姿は同じであると歌いました。

## ③ 緑の牧場に付させ

- ・共同訳聖書では、「**若草の野に私を伏させ**」となっています。若草とは、雨に潤された地に芽生える草のことです。そこは囲いのある牧場ではなく、羊や山羊が放牧された地のことです。
- ・荒野生活を過ごしたイスラエルの民にとっては、緑の牧場、若草の野は、別天地です。そこは荒野と違い最高の地を意味します。そのような緑の地に自分を置くことが出来る人は幸いです。

## ④ いこいのみぎわに伴われる

- ・さらにダビデは、「**いこいのみぎわ**」（共同訳：**いこいの水辺**）にと歌いました。そこは「憩いの場」、「休息の場」です。ホッとできる所です。安心できる所です。「**伴われる**」とは、羊や山羊を導くことを意味しています。
- ・主である神がダビデ王を導いた地は、「いこいの水辺」である地でした。若草の地で、本当に休息できる地でした。それは神が導いてくださる所の祝福の地であります。そこはダビデの居場所でした。
- ・いかがでしょうか。私たちは心休まる所、「いこいのみぎわ」である居場所を持っているでしょうか。私たちには心休まる居場所が必要です、とくに社会が忙しく動いている現在、私たちはどこに居場所を求めているでしょうか。
- ・聖書の神は善い神であります。羊である私たちを先導し、このような「いこいのみぎわ」に導いてくださるお方です。それは神を信頼する人、神とともに歩む人に与えられた祝福であります。

\* ダビデ王は自分の人生を振り返り、このように神を賛美しました。その人生は、神によって大いに祝福されました。そこは彼にとっての「居場所」でありました。さらにダビデ王の賛美は続きます。

## 2. ダビデ王は生きる力を得た

**23:3 主は私のたましいを生き返らせ 御名のゆえに私を義の道に導かれます。**

- ・ここに大切なキーワードがあります。

### 1) たましいを生き返らされた

**23:3「主は私のたましいを生き返らせ**」とは、「魂をもとに戻す」という意味で、生きる活力を

回復させることをさしています。ダビデ王は、何度も戦いに臨みましたが、神との関係で生きる活力を回復しました。神を信頼する人生とは、じつはそのような人生です。

- ・神は私の人生においても、生きる力を与えてくださいました。それは、私が弱さを経験した時でした。それは、私が失望した時でした。それは、私が疲れを覚えた時でした。どのような方法かと言えば、聖書のことばによってでした。
- ・神は時にかなって、適切な聖書のことばを与えてくださいました。ある時、心が騒ぎ落ち着かない日々を送っていたところ、1ペテロ5章のみことばが与えられ、平安が与えられたことがありました。

**5:7 思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを 心に掛けていてくださるからです。**

- ・では、どこにこのように人が力を得る秘密があるのでしょうか。それはイエス・キリストにあります。イエスは言われました。マタイ福音書11章

**11:28 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてもらおう。**

**11:29 わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしのくびきを負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。**

**11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」**

- ・イエスは、私のすべてを背負ってくださいました。それが十字架です。十字架の上で私たちの弱さ、負債、罪等のすべてを負ってくださいました。ここに救いがあります。ダビデ王は、このイエスを先に置き、信仰の目でとらえて歩きました。そこで祝福を受けたのです。
- ・神は今の時代も同じように、たましいを生き返らせてくださいます。

## 2) 義の道に導かれた

**23:3 「私を義の道に導かれます。」**とは、「正しい道筋」(義に至る道筋)のことです。神の本性のひとつは、「義」です。「正しさ」です。神は正しいお方ですから、神とともに歩む人も「正しい道筋」に導いてくださいます。これもダビデ王は、人生で経験したことでした。

- ・私は、これまでの人生を振り返ってみたいと思います。聖書の神を信じて歩いてきて、丁度60年の年月が経過しました。そこで皆さん申し上げることができることは、神は真実なお方であるということです。

① 神は、人生の誘惑と危険から守ってくださいました。

② 神は、時にかなって祝福を与えてくださいました。

③ 神は、先に希望を与えてくださいました。

- ・皆さん。神を信じて、神と共に歩む人生には平安(シャローム)が約束されますから幸いです。心騒がせることが多々ある昨今、イエス・キリストは今日も「平安があなたがたにあるように。」と語り、平安を与えてくださいます。

## まとめ

主 題: 「平安がありますように」

—My Peace—

- ・今日、私たちは心安らかに生きる人生の道を聞くことができました。

詩篇 23 篇は、イスラエルの国を治めたダビデ王が書いた詩でした。彼は晩年になり自分の生涯を、わずか 6 節の短いフレーズでまとめました。私たちはその前半部分から学びました。

• **23:1 主は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。**

**23:2 主は私を緑の牧場に伏させ、こいのみぎわに伴われます。**

• 彼はなぜ、このように自分の生涯を歌うことができたのでしょうか。

1. ダビデ王には心休まる居場所があった

2. ダビデ王は生きる力を得た

**23:3 主は私のたましいを生き返らせ、御名のゆえに私を義の道に導かれます。**

• いかがでしょうか。私たちもダビデ王のような、幸いな人生を送らせていただこうではありませんか。

• では、どうすれば良いのでしょうか？

⇒ 神を信じることです。

\* God bless you!